

**議題1** これまでの状況報告（社会実験含む）

- ・ 連節バスに対応した正着性向上の検証や施設の設計も必要となる。
- ・ 自転車への対応は重要であり、SRTとどのように共生させるのか、駐輪の問題も含めて考える必要がある。
- ・ 賑わいづくりについては、沿道を巻き込み、定期的、持続的に行うことが大事であり、また、この賑わい空間がバス停だけでは無く、沿線、エリアへと広がっていくと良い。
- ・ 日本の街路にはまだこのような待合空間は少ないが、社会実験を通じ必要性を感じた。
- ・ SDGsの取り組みを導入し、「新しい運動の始まり」、「先導性」につなげることができると面白い展開ができるのではないかと。
- ・ デジタル案内板はタッチパネルよりも音声案内が分かりやすい。お店案内よりもバスの運行情報をしっかりと伝えられるようなもの。生成AIも導入できたら良い。タッチパネルも世の中に浸透しつつあるので、遊び心を含めて触ってもらえる仕組みがあれば。
- ・ ウォークアブルなバス停ならば、バス待ち時間の抵抗を減らすことができる。

**議題2** トータルデザインの全体案について**■VI、車両**

- ・ 風景を映す「移ろいブラック」の使い方は、フィックスさせ過ぎず、車体・ロゴと使われる場所によっても、実機なのか印刷物なのかでも、表現を変えると質が保たれる。
- ・ まちを走るPR車に発展させていくのならば、歩行者から車内が見えるような設えに。
- ・ 市民参加（ぬりえ）のプロセスが問題。多くの参加があったが、どのようにデザインに反映させるか、市民参加についても先導的であって欲しい。
- ・ 「SRT」の名称は特徴があっているが、分かりにくさもある。どこかで正式な名称の確定が必要。そうでないとロゴなど各種のデザインを作り上げることができない。
- ・ 天井投影、透過ディスプレイ窓など、乗ること自身がエンタメになる機能が欲しい。

**■待合空間**

- ・ SRTの車両専用を前提としたデザインとなっているが、一般のバスも停車するとなると、バス停のデザインはどうなるかも整理が必要となる。
- ・ 夜間のイメージも考慮したデザインであるかどうか。
- ・ デジタルの運行情報は、設置箇所や内容を含め、きちんと案内できるかが重要。
- ・ 車両が流線形だが、待合空間は固い感じがする。コスト面もあるが、もう少し丸味を使ったデザインでもよいのではないかと。また、柱などが重厚な構造だと死角が増えて危険。
- ・ デザインは陳腐化していくので、機能について本当に必要なものが備わっているかどうか重要。夏でも快適に待てるかどうかは再考の余地があると思う。